

平成 30 年度 摂津市立味舌小学校 第 4 回学校協議会

平成 31 年 2 月 1 日(金) 19:00~20:50

摂津市立味舌小学校 南棟 1 階学習室にて

(出席委員) 榎谷佳純、門野さとみ、小澤香織、中居正一、前田文雄、以登田毅、河合隆之

(欠席委員) 吉田栄子、高森佳代子

(敬称略)

(学校出席者) 校長 前馬晋策、教頭 羽田行伸

1. 校長よりあいさつ

近畿小学校体育研究会に本日参加した。学習指導要領が新しくなり、2020 年 4 月からの完全実施を前に、改めて本校での体育における授業研究を進める必要性を感じた。

本日は、先日実施いたしました学校評価アンケートの結果について皆様に報告させていただく。皆様から結果についてのご意見等をいただき、学校評価に生かした上で、次年度の学校経営計画を作成する。

2. 協議事項

①近況について

11 月 29 日 個人懇談・図工展（～12 月 4 日）

12 月 5 日 給食 冬至メニュー

12 月 7 日 平和の集い 6 年修学旅行の報告等

12 月 7 日 食物アレルギー対応研修 予防と対応について

12 月 9 日 味舌東地区三世代餅つき大会

12 月 13 日 児童会あいさつ運動（朝登校時）

12 月 13 日 年賀はがきの取組み

12 月 14 日 パセリのお礼の手紙を贈呈（JA 北大阪）

12 月 17 日 保幼小交流（就学前の児童が来校）

12 月 18 日 1 年道徳研究授業

12 月 20 日 大掃除

12 月 21 日 2 学期終業式

1 月 8 日 3 学期始業式

1 月 11 日 デジタルフォトフレームの寄贈を受ける（荻建設 荻野迫氏より）

1 月 15 日 学級閉鎖

1 月 18 日 English Day

1 月 20 日 一中校区クリーン大作戦

1 月 26 日 摂津市教育フォーラム

1 月 29 日 除去食会議

1 月 31 日 入学説明会

②学校評価アンケート集計結果から

(校長) 目的は、本校教育の充実、学校・家庭・地域の連携・協力による学校づくり。回答率は保護者 88.7%、児童 96.6%、教職員 71.4%。

【肯定率の高かったもの】→味舌小学校の“強み”

1. 保護者から見て

保護者に対する相談体制、防災・防犯・事故防止に配慮した教育活動、学校行事、保護者あての文書・事務連絡、食育についての指導 など

2. 児童から見て

修学旅行、林間学校、命の大切さ・ルールについて学ぶこと、事件・地震・火災などへの対応の指導 など

3. 教職員から見て

学習形態の工夫・改善、授業法等について検討する機会、学校行事の工夫・改善、道徳教育、図書館の活用

【否定率が高かったもの】→味舌小学校の“弱み”

1. 保護者から見て

キャリア教育、ICTに係る教育・指導、楽しくわかりやすい授業、生活指導方針の明示、きめ細かい家庭への連絡、教育情報の提供 など

2. 児童から見て

担任以外で相談できる先生の存在・相談しやすい体制、実験・観察・学校外への見学の機会、キャリア教育 など

3. 教職員から見て

情報リテラシーを高める教育、経験の浅い教員の育成体制、特色ある教育活動、気軽に相談できる職場の人間関係、一中校区内の学校連携 など

【同趣旨の質問で評価に差があるもの】

- ・学校が楽しい 児童 76%、保護者 85～88%
- ・相談体制の充実 児童 45～50%、保護者 86～91%、教職員 80%
- ・人権尊重の教育 保護者 82.5%、教職員 55～65%
- ・生徒指導方針の明確化 保護者 70.8%、教職員 45.0%⇒決めて考えたことを発信する
- ・読書指導 保護者 86.3%、教職員 55～90%
- ・清掃に関して 保護者 84.9%、教職員 60%
- ・交流した教育 保護者 76.3%、教職員 40～80%

【自由記述から】 学校として、改善できることはすぐに改善したい。

⇒誰もがわかりやすい言葉を用いる（保護者より）

「置き勉」についての考えの明示（保護者・児童より）

「文化祭」の改善（保護者より）

小中一貫教育の改善（保護者・児童より）

相談体制の周知・強化（児童より）

働き方改革の推進（保護者・児童より） など

(校長) アンケート結果から、ご意見・ご感想を伺いたい。

(委員) 一番の問題は、児童の「学校へ行くのが楽しい」「学級は楽しい」について否定している児童が存在すること。

「授業についてわかりにくいところを先生に質問できる」の項目の否定率が高いことも気になります。自由記述のところでは「先生が厳しすぎる」という記述がある。そういったところから、先生と子どもの関係がどうなのだろうと読み取れるところがある。

もう一つ心配なことは、「読書」について。全国学力・学習状況調査の結果からも読まない子どもがいることがわかる。読書の習慣をつけることはやがて思考力を育むところにつながる。

「保護者への情報発信」に関するところも問題の一つだろう。さらに、キャリア教育や情報リテラシーについても、保護者に「見えていない」ことからその心配が見えてくる。

プログラミング教育が次の学習指導要領の中で必修化されるが、これも発信していく必要がある。プログラミング的思考を育むために、PCを活用してプログラミング教育に取り組んでいこうと思うが、学校が時代に取り残されることのないように、この点についての教員研修をする必要があるだろう。

(校長) 「学校は楽しいところ」という前提でとらえがちになり、その中でもっと個別に児童を見ていく必要がある。

プログラミング教育については、市全体でも取組みが遅れているかもしれない。

図書の関係でいうと、読む子どもと読まない子どもの二極化が進んでいる。また、感想文でもしっかり書けている子もいれば、うまく書けない子もいる。活字離れをしている現状が見受けられる。

(委員) 朝の時間に読書の時間を設けていたりしている学校もあると聞く。

(校長) 本校でも朝学習の時間に読書を行う日もある。府教委作成の DREAM（外国語学習教材）で学ぶ日もあり、朝学習の内容もてんこ盛りになってきている。

(委員) 児童の回答で「校長先生からの話がわかりやすい」が低いのは不思議。

(校長) 70%近い肯定率を得てうれしく思っていたが…。低学年の児童もいるので、話の内容自体は難しくないように心がけている。

(委員) 自由記述にももっとわかりやすく書いている児童がいる。校長先生の話の聞いているととてもわかりやすいのだが…。

(校長) 大人にとってわかりやすい話であっても、高学年児童には難しいと思うこともあるかもしれない。今後、努力します。

(委員) 将来の職業や進路についての項目の数値が低いことはとても気になる。今の仕事探しは、自分のライフプランの実現のために行うという視点に変わってきている。

(校長) 「自己有用感」がキーワードの一つになると思う。

(委員) 企業でも、収入についての考え方が変化してきている。携帯も 4G から 5G に替わると今のいろい

ろな職業がなくなるだろう。そういう意味では自分の将来について考える機会をもっと持つ必要があるだろう。

ところで、2020年から外国語が本格実施されるのか。

(校長) 3,4年で外国語活動を週1時間、5,6年で教科としての外国語を週2時間実施する。そのため、2020年度からは外国語、これは英語になりますが、その教科書が登場する。次年度からこの時数を本校でも実施し、新学習指導要領への対応を図りたい。そのために、3年生以上で週当たりの授業を1コマ増やす予定。

(委員) 外国語を教えるのは、担任の先生？

(校長) 基本的には担任。教える側は大変になるかもしれない。

(委員) 英会話教室ではネイティブの人が教えてくれるし、通って英語が使えるようになっていてALTとのコミュニケーションは楽しめている。しかし、教科として行くと嫌になってしまう子もいるだろう。

(校長) 実際、今は話すことを中心に取り組まれているが、今後は「書く」ことも入ってくる。そうなるのと、英語嫌いが出てくるかもしれない。

(委員) そうなってくると本当に先生たちは大変だ。経験の浅い教員を育てることもさらに大切になってくるだろう。

(委員) 教員の回答で、お互いに話がしやすいという項目が低いということも課題であり、もっと話し合う機会を設ける必要があると考える。

(委員) 教職員の数が少ないことも話し合う機会が少なくなる原因の一つだろう。

(委員) 公務員は採用されてすぐに本務につかなければならない。民間では必ず1か月は研修を積んでからになるのだが…。人が少ないので、採用後に現場を離れての長期研修は難しいだろう。

(校長) 新年度も初任教員は配置されると思われる。今年は1人だが、複数配置される可能性もある。

(委員) 先生たちがお互いに授業を見合う機会というのはどれぐらいあるのか。

(校長) 年間を通じて研究授業などお互いの授業を見る機会は複数あるが、もっと日常の授業を見ることもあっていいと考える。現場で教員が育つと言われるが、育つためには常に何をやっているかを見て聞いてできる機会が必要だ。

(委員) 自由記述に「フィンランドのような学校・授業」とあるが、これはどういうことだろうか。

(校長) 「フィンランド・メソッド」を授業に取り入れようという動きが一時流行った。中核になるのは、国語教育だが、発想や論理、表現、コミュニケーションの力を育むことをめざし、意見交換の場を増やすなど、必要な力のとらえや学びの型などは今の日本の教育に大きな影響を与えている。

(委員) アンケート結果をよくまとめてくださったなと思っています。先生も保護者も、みんなが子どもたちのために一生懸命に考えてくれていることがよくわかった。難しい言葉もあるが、前後の文章を読んで意味が理解できるところがある。フィンランドも自主性を育てる教育が行われているのだということもわかった。

(委員) OECDの学力調査の結果からフィンランドが注目されているところがあるのだろう。

(校長) フィンランドでは学級は20人規模と聞いている。また教員になるのは難しく、そのため教員の待遇が良いという話もある。国の様々な事情もあるので、単純に比較はできないが、日本の教員の

待遇も改善が必要かもしれない。

(委員) 教員の超勤は手当がつかないのか。

(校長) つきません。時間管理はカードを使って行き、時間外の勤務時間を教育委員会に報告しているが、超勤手当はありません。

(委員) このアンケートはこれから毎年続けていくのか。

(校長) 文言を少しわかりやすくするなどはあるが、この内容で継続していきたい。

(委員) そうすれば経年で変化を見られると思うので、ぜひお願いしたい。

(委員) 今の先生たちは仕事をしているとピリピリしていて、声をかけ辛い雰囲気を感じる。ALT や読書活動等の職員が入ってきて、任せてしまうとそれは仕事の棲み分けのようなものになってしまう。そうではなく、昔からやっている T.T. (Team Teaching) の意識でやっていけば面白い授業づくりにつながるのではないか。本の紹介も、読書サポーターがやってしまうと、それは図書室の中だけに留まってしまう。担任と一緒にいると、それは学校の中に大きく広がっていく。やっていることに先生がどう関係していくかを考えながら、先生の負担が大きくなるようにしていけば良いと感じた。

(校長) English Day (市で配置している ALT (外国人英語指導助手) 全員が一つの小学校に集まって、一日中全校児童が英語に親しむ取組み) の時にも思ったが、ALT と先生と一緒にやると、子どもたちもより一層楽しんでくれる。そういうことなのかなと感じた。

(委員) 先生への相談の項目が気になった。子どもにとって話をしやすいと感じる先生が多くなると、子どもが先生を選び、話をしやすくなる。切羽詰まって話ができなくなると困った時にどうしようもなくなる。子どもたちが話をしやすい、逃げ道のある状況を作ってあげて欲しい。

(校長) 小学校では児童が担任と一緒に過ごす時間が長いので、担任と合わなくなってしまうことがあるとすべての歯車が回らなくなることもある。そうならないように取り組みたい。

(委員) 保護者であるので子どもの話を聞いている、そして保護者同士の話も聞くこともよくあるので、否定的な中でも『まったく当てはまらない』『どちらかという当てはまらない』の違いがあるとも感じている。

例えば ICT について、コンピュータ室があるということを保護者が知らないかもしれない。児童会活動も保護者が知らないかもしれない。キャリア教育についても、今の子どもたちの方が『夢を持っている』と思うが、親がそれをわかっていないことだってあるだろう。学校が楽しいという項目についても、否定的な回答をしている割合も、自分の感覚としてはそんなものなのかなと思った。

アンケートを続けていくことで、もっと内容を知ったりして、回答についても変わってくるだろう。経験の浅い教員を育てることについても、やはり一般企業と比べると学校現場が厳しい状況があるだろうと思う。

③学校評価アンケート集計結果からの自己評価について

○安全で安心できる学校づくりの観点

(1) 自尊感情を高め、人間関係作りを意識した学校・学級

人権尊重の姿勢での指導には成果。系統的な人権教育には課題。

(2) 安心して生活できる学校

ルールを守ることについてはある程度の定着が見られる。新規不登校児童への対応に悩む。

(3) 安全に生活できる学校

訓練が実際の場面で生かされている。学校としての備えは進む。

(4) 教職員が力を発揮できる学校

学校からの発信は増加。方針等はさらにわかりやすく発信する必要。

教職員の育成体制は改善が急務。働き方改革は行事の見直しから。

○確かな学力を育む学校づくりの観点

(1) 学力向上

1. 組織的な取組み

研究・研修は積み上げができた。学力調査の結果公表。目に見える成果が出ていない。

2. 学級を中心とした継続的な取組み

書くことへの抵抗感は減少も、意図して書くことは不十分。ICT教育の充実必要。

3. 家庭との連携

連携した自主学習の取組みは進む。家庭学習時間は短い。

○誰からも愛される学校づくりの観点

(1) 保護者・地域との連携強化

民生懇話会の充実。学校協議会のリニューアル。

連携を基盤とした取組みは継続。一中校区の学校同士の連携強化が必要。

(2) 学校からの積極的な情報発信

学校HPをリニューアルし、更新頻度アップ。

発信についての一般教職員の意識向上が必要。管理職からの発信の機会は増加。

3. その他

【次回の主な内容】

○平成31年度味舌小学校経営計画について

○平成31年度年間行事計画（現在作成中）※運動会は9月末開催、個人懇談会を年間2度行う予定。

○「置き勉」、スマホについて※教科書を置いて帰ってもよい場合などを保護者に周知予定。

4. 閉会にあたって

(校長) 今後、学校協議会のメンバーをさらに増やしたい。次年度のメンバーとして推薦いただける方があれば、ぜひ紹介いただきたい。よりよい学校経営のためにより多くの方からご意見を伺いたい。

次回予定 平成31年 2月 27日(水) 19時から
摂津市立味舌小学校 学習室にて